

OMU

大阪公立大学人権問題研究センター

RCHR

第171回サロンde人権

被差別部落からの アメリカ移民と 戦時強制収容

話題提供：

廣岡 浄進 氏

(大阪公立大学 人権問題研究センター准教授)

2月15日 (水)

午後1時30分～3時30分

無料

大阪公立大学 人権問題研究センター
定員 対面 10名 ZOOM 100名
事前申込・先着順

参加希望者は otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp に前日正午までにご連絡ください。

定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

日系アメリカ人は、リドレス運動により大統領謝罪と連邦政府補償をかちとり、第二次世界大戦下での日系人強制収容を公的な歴史のなかに位置づけることに成功しました。運動の成果は、強制収容関係史料の整理と公開においても反映されており、かなりの史料がオンラインでも閲覧できます。それらの記録からは、断片的ではありますが、収容所での日系人を対象とする社会学や人類学の研究者を投入した調査が、部落差別に関心を持っていたことも浮かびあがってきます。語りの困難さという課題にも目を向けつつ、歴史記述の可能性について考えたいと思います。

【新型コロナウイルス感染予防対策のため、ご協力をお願いいたします。】

※発熱や風邪のような症状のある方につきましては、参加をお控えください。※かならずマスクの着用をお願いいたします。

※会場入口に消毒薬をご用意しておりますので、ご利用をお願いいたします。